

# 栄養士・管理栄養士のための Nutrition特別記念セミナー 開催報告

日時：平成30年12月16日(日) 9:30～15:30  
場所：ホテルマイステイズ松山  
参加人数：101名

## 【講演 1】

糖尿病患者の行動変容-患者の視点から行動変容を考える-

愛媛大学医学部附属病院栄養部 部長 利光 久美子先生

- ・糖尿病のステージごとの行動変容やステージ別の支援方法について講演された。
- ・糖尿病の治療を支援するにあたり、患者の視点に立っているのか。病態や現状の予測が必要。
- ・血糖値のみで良い悪いを判断せず、患者の背景因子や生活パターンと行動変化がHbA1cにもたらす影響など、血糖上昇因子は何を理解することが重要である。



## 【講演 2】

エビデンスに基づく糖尿病透析予防指導の効果と課題

京都大学医学部附属病院疾患栄養治療部

副部長 幣 憲一郎先生

- ・糖尿病透析予防を目的に京都大学で実施した指導を基に、その効果と課題について講演された。
- ・透析導入患者原因疾患のうち糖尿病性腎症は年間5000人のペースで増加している。
- ・慢性透析療法の現状を踏まえ多職種によるチーム管理が求められている。多職種の協力により療養指導の継続管理へと結びつけることが重要である。



## 【講演 3】

栄養施策の動向-管理栄養士・栄養士への期待-

厚生労働省健康局健康課 栄養指導室長 清野 富久江先生

- ・健康日本21(第二次)の概要と評価、その中の栄養施策について講演された。
- ・国民健康・栄養調査では、高齢者の健康状態と生活習慣の関連性が大きいことがわかった。外出などによる運動の不足や口腔機能の低下により高齢者の低栄養リスクが高くなる。
- ・日本人の食事摂取基準(2002年版)の策定などについても説明があった。
- ・管理栄養士・栄養士は今後、一人一人に寄り添い国民の健康を守ることが求められている。



#### 【講演 4】

日本栄養士会が取り組むべき課題

神奈川県立保健福祉大学 学長 中村 丁次先生

- ・栄養士がこれから求められることと、日本栄養士会の取組について講演された。
- ・栄養士の目的は、栄養状態を改善して健康寿命を延伸することである。
- ・栄養の指導をするにあたり、メタボとフレイルの対策移行のタイミングは重要である。
- ・日本栄養士会の取組として、高齢・少子社会、災害の取組推進や、国際貢献・最先端技術社会への対応が掲げられている。



#### 【講演 5】

栄養と地域共生社会、データヘルス、国際貢献

衆議院議員 塩崎 泰久先生

- ・変わりゆく日本の課題を受け、新たな「社会システム」へ向けたパラダイムシフトが求められている。
- ・地域包括ケアシステムから地域共生社会へ。「我が事・丸ごと」の実践例と地域共生社会の実現に向けた取組の推進について講演された。
- ・厚生労働省のデータヘルス改革は日本がこれから直面する少子化・高齢化に伴う課題を解決するための重要な糸口の一つとなる。
- ・科学的介護による自立支援、重度化防止が求められており、中でも栄養は健康寿命延伸の要となる。

